

第21回遺棄化学兵器処理事業に関する有識者会議

遺棄化学兵器処理事業の 進捗状況について



令和3年5月27日(木)
内閣府遺棄化学兵器処理担当室

1. 経緯

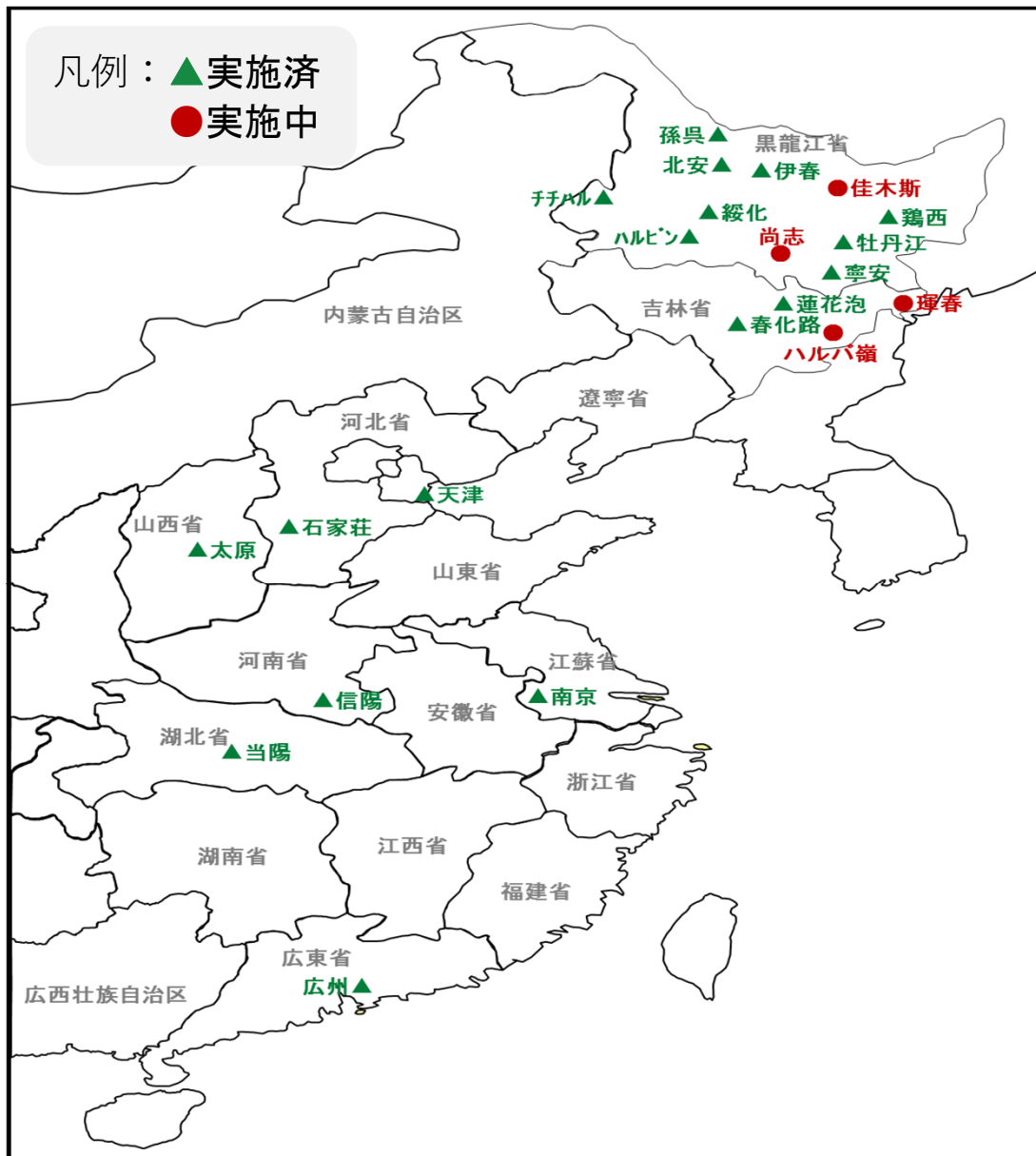
体制		事業	
1997(H9).4	化学兵器禁止条約が発効 化学兵器禁止機関（OPCW）設立		
1997(H9).8	「遺棄化学兵器問題に関する取組体制について」 （閣議了解）→内閣官房に「担当室」設置		
1999(H11).3	「遺棄化学兵器問題に対する取組について」 （閣議決定）→総理府に「担当室」設置	2000(H12).9	北安で発掘・回収事業を実施
2008(H20).6	「有識者会議」設置	2010(H22).10	南京で移動式廃棄処理を実施
2012(H24).4	化学兵器禁止条約上の廃棄期限 「2012年4月後の廃棄計画」（OPCW承認）	2012(H24).11 2012(H24).12	ハルバ嶺で発掘・回収を開始 石家荘で移動式廃棄処理を実施
2015(H27).3	「遺棄化学兵器問題に関する基本方針について」 （閣議決定）→内閣府の「担当室」に一元化	2014(H26).12	ハルバ嶺で廃棄処理を開始 武漢で移動式廃棄処理を実施
2017(H29).3	「2016年後の廃棄計画」（OPCW承認）		
		2019(R元).5	ハルビンで移動式廃棄処理を開始
2022(R4).12	ハルバ嶺等の廃棄完了の目標時期	(2022(R4).12)	ハルバ嶺等で廃棄完了予定)

2. 実績

(2021年4月現在)

<発掘・回収事業>

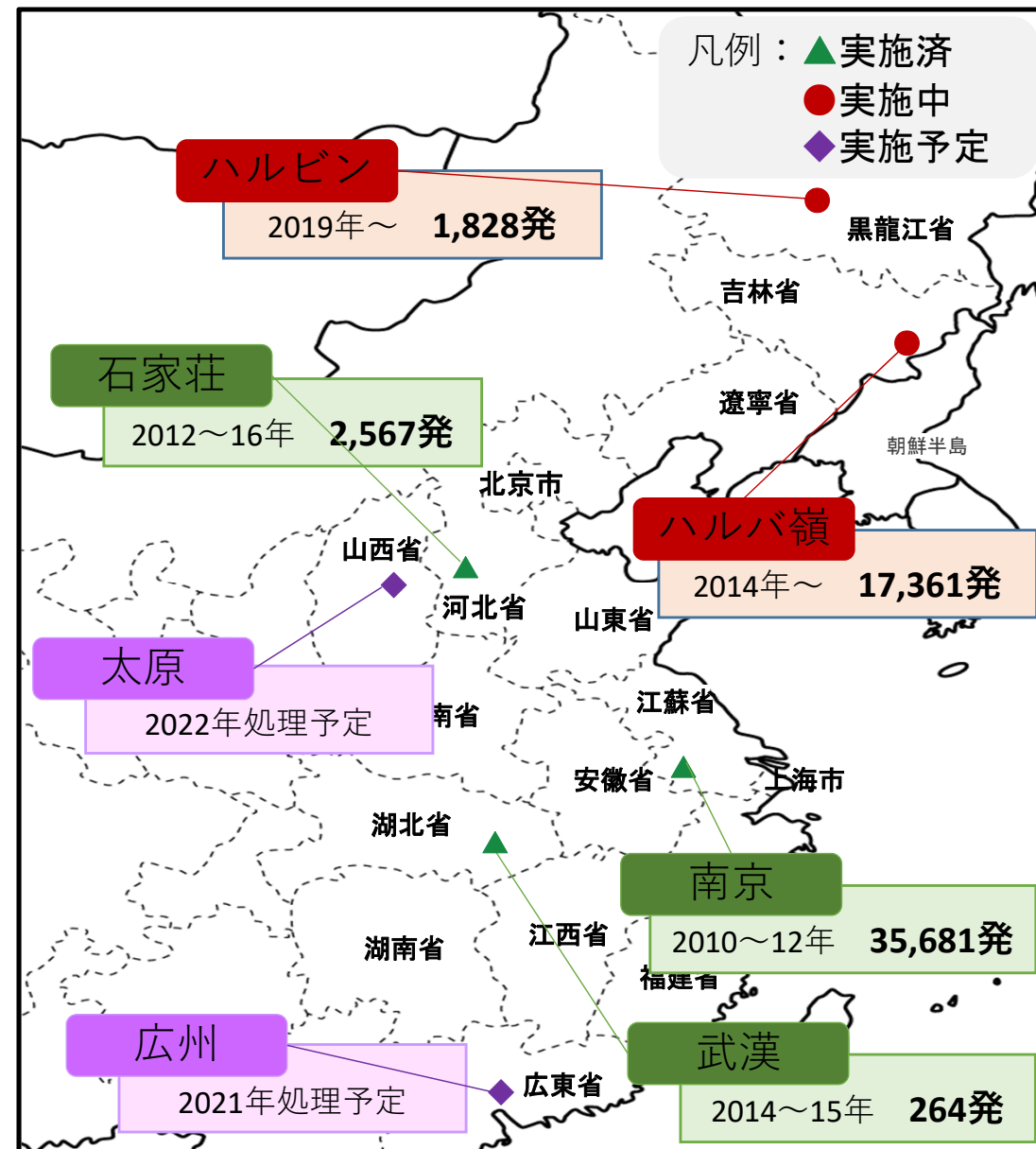
凡例：▲実施済
●実施中



発掘・回収総数：83,705発

<廃棄処理事業>

凡例：▲実施済
●実施中
◆実施予定



廃棄処理総数：57,701発

3. 新型コロナウイルスへの対応状況

<2020年>

- 発掘回収・廃棄処理事業の中断
- 砲弾・廃棄物輸送事業の実施
 - 廃棄物輸送（石家荘）の実施 [10～11月]
 - 砲弾輸送（武漢）の実施 [11月]
- 新型設備導入事業の継続
 - 大型廃棄処理設備（ハルバ嶺）
（建屋建設工事 6月～）

2020(R2).2～10 外務省が渡航中止勧告
👉 全派遣要員の引き上げ

2020(R2).12～ 設備の維持管理要員を派遣

<2021年>

- ハルバ嶺事業の再開
 - 👉 他地域は引き続き状況を注視
- 砲弾・廃棄物輸送事業の実施
 - 砲弾輸送（ハルビン） [8月]
 - 廃棄物最終処分（南京） [9～12月]
- 新型設備導入事業の継続
 - 大型廃棄処理設備（ハルバ嶺）
（設備据付工事 4月～）
 - 高機動型廃棄処理設備（広州）
（用地造成工事 6月～）

2021(R3).3～ 大型設備据付工事要員を派遣
発掘回収・廃棄処理要員を派遣

2021(R3).5～ ハルバ嶺事業の再開

（注）5/26現在265名を派遣中(うち内閣府職員は6名)

4. 廃棄計画の達成状況

現行廃棄計画の概要

達成状況

ハルバ嶺事業

- 大型廃棄処理設備の導入
- **2022年中の廃棄完了**

- 大型廃棄処理設備は2022年より稼働予定
- 設備導入は少なくとも2年程度遅れる見通し

移動式廃棄処理事業

- 高機動型廃棄処理設備の展開
- **OPCW申告済砲弾の2022年中の廃棄完了**
 - ハルビン
 - 広州・太原
- 遼源事業の廃棄計画を2022年までに策定

- 高機動型は広州(2021)、太原(2022)に展開予定
- 2022年中の廃棄完了を検討中
- 詳細調査(2021)、廃棄計画策定(2022)を検討中

各地発掘・回収事業

- 可能な限り計画的な方法で推進
 - 佳木斯、琿春、尚志等

- 2021年度後半以降の事業再開を検討中

5. 事業予算の状況

2021年度歳出予算額 504億円
(対前年度 ▲39億円)

ハルバ嶺事業 262億円

- ・発掘・回収事業 29億円
- ・廃棄処理事業 160億円
- ・大型廃棄処理設備等導入 24億円
- ・運営管理 50億円

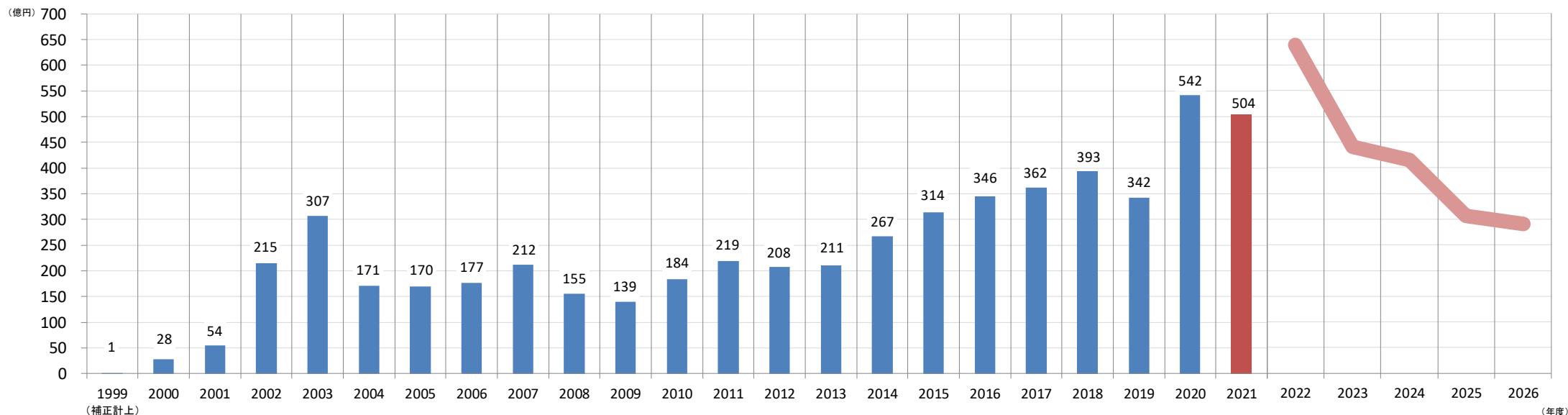
移動式処理事業 110億円

- ・ハルビン事業 20億円
- ・高機動型処理設備導入 74億円
- ・砲弾等輸送 16億円

各地発掘・回収事業 88億円

- ・佳木斯事業 36億円
- ・琿春事業 10億円
- ・X線鑑定等 35億円
- ・緊急・発掘回収事業 6億円

※2020年度から2021年度へ約199億円を繰越



※1. 2020年度までの予算執行額累計は約3,406億円

※2. 2022年度以降は当室の概算見込み